



オープン授業研究会（小学部） 「ねんど×造形遊び 心が動く」

「生涯学習力」を高めるためには、安心できる身近な大人や友達との関係の下で、様々なこと・ものに触れて心を動かしたり、自分が好きなことに気付いたりする経験を小学段階で十分に積み重ねることが必要です。オープン授業研究会では、粘土を用いた造形遊びを通して、児童の「あれ?」「ん?」「たのしそう!」といった粘土の面白さに出会ったときの、児童の「心の動き」を大切にしたい授業と題材を提案しました。心が動いた瞬間を見逃さずに、児童の気持ちに寄り添い、もっとやりたい、もっとこうしてみようという新たな気づきに広がっています。



小学部わかば学級 図画工作科「さわって さわって へんしんねんど」 R2・1・29

ワークショップ「児童の『心の動き』を楽しもう」

授業研究会では、子どもの内面に目を向け、どのような場面で心が動いたのか、どのように気づきが広がっていったのかという観点でワークショップを行いました。授業の様子をビデオで振り返ることで、より詳しく児童の様子を見とることができました。



■ 児童の様子（事実）
■ 児童の心の動き（教師の見取り）

4グループ 対象児童B				
時間	10:45	11:00	11:15	11:30
粘土の変化	1a 課題 あいつ		2a 課題 6E0 E1P0	
児童の様子（事実）	[Handwritten notes and diagrams for each group]			
心の動き（見取り）	[Handwritten notes and diagrams for each group]			

ワークショップ参加者のアンケートから

- ・同じ場面を見ている、児童の活動の見取りには様々な意見があった。
- ・「心の動き」にのみ着目して、話し合うのはとても面白かった。
- ・ビデオを見ながら解釈を重ね合わせることで、話し合いが深まった。

ワークショップを通して気付いた児童の「心の動き」から、次のように解釈し、手立ての工夫をしました。

「心の動き」と解釈

改善授業での取り組み

肘で粘土を押していたB君は、活動に飽きてきたのではなく、粘土を平らに伸ばしたかったのかもしれない。	粘土を加工できる道具を用意しておく。必要に応じて渡したり、使い方のモデルになったりして、発想を広げられるようにする。
A君は授業の後半、会話をしなくなり黙々と制作に向かっていた。粘土に触れている中で発想が広がっていったのではないか。	2単位時間の授業を行い、制作に取り組める時間を十分に確保する。



改善授業の様子 R2・2・11